

史跡九戸城跡

ジュニア版

石沢館

二ノ丸

本丸

エントランス広場

史跡九戸城ってどんな城？

九戸城は、九戸氏の城として築かれ、天正19年(1591)の九戸一揆後には、南部氏の城となりました。

「九戸氏の城」であったという地域の思いから九戸城と呼ばれています。

史跡九戸城跡とは

九戸城は、自然地形を利用して築かれた平山城で、三方を馬淵川、白鳥川、猫淵川に囲まれ、川と城との間が崖となっています。城の面積は、約36haあり、本丸・二ノ丸・石沢館・若狭館・松ノ丸・三ノ丸の曲輪に分かれています。

城には、九戸氏の九戸城と南部氏の福岡城の時代があり、九戸城は自然地形を利用した土づくりの城、福岡城は石垣をもつ城という特徴があります。

昭和10年6月7日に国の史跡に指定され、令和4年3月15日には、福岡城時代の侍屋敷地である在府小路遺跡の一部が追加指定を受けました。

九戸城エリアマップ



本丸の立石群と石階段



二ノ丸東側上下段平場



深田堀

九戸城と九戸一揆

戦国時代から安土桃山時代の二戸周辺では、九戸城や金田一城、浄法寺城の城主がそれぞれの地域を治めていました。

天正18年(1590)に豊臣秀吉の命令によって行われた奥羽仕置の決定に反発した九戸氏をはじめとする城主は、天正19年(1591)に九戸一揆を起こします。

九戸一揆鎮圧と再仕置きを目的に豊臣秀次を総大将とする再仕置軍が組織され、9月2日に九戸城へ到着し、4日に一揆を鎮圧しました。

九戸政実(九戸城主)、櫛引清長(櫛引城主)ら一揆に参加した武将7名は、栗原郡三ノ迫(宮城県栗原市)で処刑されました。

歴史

戦国時代

明応年間 (1492 ~ 1501)

九戸城 (九戸氏の城)

九戸光政によって築かれたとされています。

安土桃山時代

天正 18 年 ~ 19 年 (1590 ~ 1591)

九戸一揆

奥羽仕置の内容に反発して東北各地で起こった一揆のひとつです。東北各地で行われた再仕置軍と一揆勢との最後の戦いの舞台となりました。

九戸一揆に参加した軍勢は、再仕置軍6万、九戸方が約5千であったといわれています

江戸時代以降

天正 19 年 ~ 寛永 13 年 (1591 ~ 1636)

福岡城 (南部氏の城)

九戸一揆鎮圧後、蒲生氏郷らによって、本丸・二ノ丸・松ノ丸が改修されました。

寛永 13 年 (1636)

廃城後

建物は取り壊され、柱などの木材は、盛岡城の建物に再利用されました。明治26年(1893)には、国分謙吉(のちの公選の初代岩手県知事)によって農事試験場として使用されました。



東北各地の一揆と地域を支配していた大名

福岡城と石垣

北東北で石垣が城に築かれるのは秀吉の天下統一後で、それまでは石垣がありませんでした。

九戸城に残された石垣は、九戸一揆後、蒲生氏郷ら再仕置軍によって築かれたものです。東北地方の石垣のなかでも古く、土づくりの城から石垣の城へと城の変化を伝える貴重なものです。

石垣をもつ城へと作り変えられた九戸城は、南部信直に引き渡された後、「福岡城」と呼ばれ、盛岡城へ移るまでの間、南部氏の本城として使用されました。



本丸南側堀の石垣



加工されていない自然石を積み上げて築かれた本丸の石垣



二ノ丸大手土橋の石垣

「福岡」と名付けたのは誰？

いま、福岡と呼ばれている地域は、もともとは「宮野」と呼ばれていました。九戸一揆後、南部信直が土地が栄えるようにとの願いを込めて「福岡」と名付けたと言われています。